

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月11日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600164
法人名	有限会社花
事業所名	ふれあいホーム花
所在地	鹿児島県阿久根市西目6283番地2 (電話) 0996-72-7171
自己評価作成日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年11月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・海、山に囲まれ自然豊かで静かな環境にある。海の幸、山の幸に恵まれ季節に応じて週3回、地元の魚屋より魚介類を購入している。毎週日曜日は、新鮮なお刺身を提供し、利用者に喜ばれている。春は、竹の子むきやつわむきを利用者に手伝って頂き、煮しめや佃煮を作ったり、地域の方より新鮮な野菜やさつま芋や栗を沢山頂いて食事やおやつ(大学芋、がね天、スイートポテト、栗の渋皮煮など)を提供している。
- ・地域の方との交流もあり、地域の鬼火たきや盆踊り、運動会への参加、敬老会では踊りの慰問、消防訓練への参加など自主的に参加して頂き、とても助かっている。
- ・毎月第3木曜日には、勉強会、カンファレンスを開催し、利用者にとってのスタッフの心構えなど、初心を忘れないように取り組んでいる。
- ・医療面では、毎月1回、協力医院の医師の往診や月2回の歯科医師、歯科衛生士の往診治療や口腔ケアの方法等教えて頂き実践している。ホーム内にも看護師1人、准看護師2人がおり健康管理や服薬管理、専門医院(皮膚科、眼科)への通院など実施している。
- ・職員も仕事がしやすいように、勤務体制を聞きながら勤務表を作成している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿久根市郊外の緑に囲まれた、自然豊かな環境に位置している。ホームの周りには花や木が多く植えられ、利用者や家族、また来訪者の目を楽しませてくれている。ホーム内は、玄関から廊下、風呂場やトイレまで全てが掃除が行き届き清潔に保たれ、利用者が気持ちよく過ごせている環境や職員も効率よく仕事をさせている事を感じ取ることが出来る。理念である「優しさ・温もり・楽しみ・ふれあい・美味しさ」を管理者はもとより職員も理解し、意識しながら日々のケアを実践している。「美味しさ」には特にこだわり、メニューも多く地元の魚や野菜の差し入れが地域からもあり、刺身も新鮮なものが提供できている。日々の暮らしの中で楽しみ事や「美味しさ」を実感できる手伝いをしていきたいと、優しい心遣いが伺えるホームである。地域との交流も運営推進会議や避難訓練への参加、また地域の行事に招待されたりホームの行事に参加してもらったりと、地域密着は十分に図られている。重度化や終末期については、看取りの経験もある。家族や医師と連携をとり、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。急変時の対応ができるようにと、救命救急処置の講習会も定期的で開催し、全職員が訓練に参加し実践力を身につけている。ホーム内には数匹の猫が、利用者といっしょに日々をゆったりゆっくと過ごしている、猫との生活でアニマルセラピーの効果をあげているホームである。職員間のコミュニケーションもよく、管理者との信頼関係も築かれ、利用者への思いを共有しながら、5つの理念を基にケアを実践しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの最後に理念を唱和して、職員一人1人が常に意識付けるように心がけている。ケア時にも忘れないようにあちこちに表示してある。	開設時に「優しさ・温もり・楽しみ・ふれあい・美味しさ」を理念に掲げ、玄関・リビング・パンフレットに掲示し、ミーティング時には唱和し共有を図っている。勉強会では理念を取り上げ、振り返りや意見交換を行い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の消防訓練や敬老会への地域の方の参加や、地域で開催される鬼火たきや運動会への参加などさせて頂き、地域との交流ができています。	自治会に加入している。回覧板の活用で地域の情報収集を行っている。小学校の運動会に招待されたり、敬老会に慰問でボランティアの方の踊りがあったり、また消防訓練には地域住民の参加がある。火災時には避難場所として提供したり、認知症講座を開催するなど地域貢献も行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所の消防訓練時など地域の方に集まって頂いた時など、認知症の方の状況を話し、認知症についての理解を深めて頂いたり、地区の公民館で認知症サポーター養成講座を開催したりして認知症サポーターになっている地域住民も多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月おきの運営推進会議により、利用者の状態を報告したり、消防訓練や救命講座に参加して頂き、意見や助言をもらいながら、サービス向上に取り組んでいる。	定例化された会議には、家族代表・民生委員・老人会・区長・市担当者等が参加し、ホームの現状や行事・ヒヤリハット等の報告や、意見交換を行っている。地域との情報交換や意見要望を参考にサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加してもらい、入所者についても、相談や助言を頂きながら、協力を頂いている。	市の担当者には、運営推進会議への参加や、窓口に出向いたり電話で相談している。研修案内などの情報交換もあり、日頃から協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開催し、理解を深めたり、身体拘束をしない宣言を掲げ、スタッフ全員で身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。	日中の施錠はしていない。日々の申し送りやミーティングで身体拘束防止を繰り返し話し合い、利用者の安全確保や自由な暮らしの支援に繋げている。気になるスピーチロックが減ったことや、職員同士の気づきが増え都度注意をするなど、全職員が拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会をして、虐待により利用者が不利益を被ることがないように、職員一人ひとりが取り組んでいる。施設の理念が優しさであるので、声かけや対応には気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で成年後見制度や権利擁護について勉強会を開催したり、実際、成年後見制度を利用している利用者もおり、活用支援できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所当初、契約書の内容の説明を行い、同意を得て署名、捺印を頂いている。分からない時は、随時、質問をもらいながら、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会に家族代表を置いたり、家族会を開催したり、家族の面会時やメールやラインで希望や要望を聞き、運営に活かせるようにしている。	利用者の思いは、日々の暮らしの中できみ取り、家族とは面会時や運営推進会議の場や家族会・行事等での対話や、メールやラインでも意見要望の把握に努めている。出された意見要望は職員と話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の希望や要望を日々の業務の中や勉強会開催時、聞きながら勤務表を作成したり、利用者の状態により他病院施設への転院など考慮し、スタッフが安心して業務に取り組めるようにしている。	ミーティングや職員会議時に、意見提案を聞いている。ケアに必要な物品購入も話し合い、環境整備に努めている。職員自身の自己評価アンケートも行っている。管理者は意見提案が出やすい雰囲気作りや資格取得の支援もしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や勤務状態により給与水準や介護処遇改善交付金の料金を設定している。勤務時間も職員の希望を取り入れている。職員同士の協調が取れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他病院の研修会で事例発表をしたり、毎月施設内の勉強会でも職員が研修資料を作成して、開催している。認知症の理解についての研修資料を作成し、毎月、勉強している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームより、施設内の見学に来たり、ケアプランの内容などを確認したりして、互いに情報交換を行いながら、サービス向上に向けて取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、最初の理念の優しさを念頭に、どの利用者にも、笑顔で優しく挨拶や声かけができるようにしている。利用者の言葉に耳を傾けながら、馴染みの関係作りができるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠方に住んでいる家族には、家族の希望で必要に応じ、メールやラインを利用して、利用者の情報や家族の希望など情報交換ができ、信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前や入所時など事前にどのようなケアを望んでいるのかを把握し、その中で、利用者自身の希望も伺いながら、良いケアができるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる部分は大切にし、魚の下こしらえや茶碗洗い、洗濯物干し、たたみなど、できる部分は手伝って頂いている。役割の喜びや機能の維持に勤めながら、馴染みの関係作りができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病気など何か問題が生じたら、すぐに家族に連絡をして、できるだけ職員、家族と一緒に同行して利用者の通院や入院など対応できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の法事や墓参り、自宅への外出、外泊など、いつでもできるように家族にも伝えている。	家族と墓参りや法事の他、美容室へ行く利用者もいる。家族と一緒にパチンコ・競輪に行き楽しむ利用者もいる。友人・知人の面会があれば部屋や談話室でお茶を飲みながら、ゆっくりと談話してもらっている。馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の関係を把握して、テーブルセッティングをしたり、利用者同士で気を使いながらお互いを心配して、掛け物を掛けたり、肩をもんだりの光景もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなってから、その家族2名が職員として勤めている。また、退所後も、家族が施設に訪れたり、他施設利用の希望がある場合は、手続きを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から、情報収集を行い、個々の生活習慣や趣味（歌、読書）、嗜好（喫煙、飲酒など）を重視して、ホームでの生活が良好にできるように対応している。	日々の生活の中から、利用者の表情やしぐさ又家族からの情報収集で、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集や本人との会話の中で、生活歴や生活習慣を把握し、ホームでの生活や会話にも取り入れ、利用者スタッフとの良好な関係作りができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	テーブル拭きや洗濯物たたみ等出来る利用者に声かけを行い、生活動作の維持に努めている。身体機能の状態を観察し、一人ひとりに合わせた介助を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の状態を観察し、変化がある場合は、連絡会を開催し、意見交換を行い、今後のケアに活かせるアイデアを出し合っている。家族の訪問時には、状態の報告を行い、意見を伺い介護計画に役立てている。	職員は担当制となっている。利用者や家族の個別の思いに応じたプランである。毎月のモニタリングでは利用者の状況状態に応じて話合われ、何か変化があれば見直しするなど、現状に即した介護計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を記録し、申し送りや連絡ノート、その時々で口頭で日々の変化を把握する。また、日頃の職員間の伝達や勉強会を通しスタッフ全員で情報を共有し合い日々のケアや、今後の介護計画に反映できるよう取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から情報収集を行い、常にホームでの生活が良好に保てるよう取り組んでいる。また、急な外出・外泊、病院受診等、本人や家族の希望に添ったケアができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会や盆踊りに参加し、敬老会では、多くの地域の方が慰問にみえている。また、消防訓練では近所の方々にも参加していただき、緊急時の協力体制を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医があればそちらを優先受診し、本人の診療情報を把握する。また急変時や専門科診療は本人家族の同意を得て、状況に合わせた適切な受診を行っている。	入所以前からのかかりつけ医となっている。病院受診には家族が支援しているが、状況に応じて職員が同行している。協力医療機関からは、毎月定期的に往診を全員受けている。他科受診は、ホーム支援するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在3名いる看護職員は、毎朝、定時に実施されるバイタルチェックの報告を受けている。また、身体状況の変化や、観察項目に問題のある場合はその都度、看護職員への報告を行い、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時はスタッフが付き添い、入院中は定期的に面会に行き、病状の改善状況を医療機関や家族と連絡を取り合い、情報交換を行っている。同時に、退院後の対応がすぐに行えるよう連絡相談をし連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化あるいは終末期病態に備え事前に本人や家族の意向を確認し、その個人の意見を尊重し意向に沿った介護や看取りを行えるようにしている。主治医や協力医療機関と連携をとりながらスタッフ全員で安らかな終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	入所時にホームの指針を説明し同意をもらっている。これまでも看取りの経験もあり、段階に応じ医師の指示のもと職員・家族全員で方向性を共有し、ホームで出来る最大の支援に取り組んでいる。家族の協力支援も大きな力となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応ができるよう消防署員による救命救急処置の講習会を定期的で開催しており（直近10月）、全職員が訓練に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時に備え飲料水や保存食、防寒着を確保し、当施設が避難先として利用できるようにしている。また、防災訓練は消防署員出席指導のもと定期的に行っている。防火訓練には地域の方々も参加し緊急時の協力体制に支援していただいている。</p>	<p>消防署立会いと自主訓練で年2回の火災訓練を行っている。訓練には地域住民も参加し、役割も決められているなど協力体制は築かれている。ホームは区の避難場所になっており、災害時に備えた備蓄も確保されている。現在地震や原発への対策を改めて検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけ時は声の高さ、話す速度、顔の表情、目線等に気を配り、受容、傾聴、共感を念頭に、相手の尊厳を損なうことのないよう優しく接するように心がけている。	排泄誘導時の羞恥心やプライドには特に配慮し、日常業務でおろそかになりがちな言葉遣いや対応などで、気づいた事は都度改善を促し、サービスの質の向上に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活歴や会話を中心に嗜好や希望を聞き、好みに応じた塩分調整、室温など、本人の思いを取り入れ、個々に調整が行えるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性を尊重し、無理はせず、したくないことを強制せず、個人の意欲や感情、好みに沿って、一人一人のペースに合わせて、穏やかに一日が過ごさせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	催し物や行事、外出時などその時々に合わせて洋装、定期的なカット、カラーリングをし、季節にあった衣類を着ていただき身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食は一番の楽しみ事と捉えており、季節ごとに地元でとれた新鮮な食材（タケノコ、つわ、ウニ）を提供し、下ごしらえも職員と一緒に、季節を舌で感じ取ることができるよう努めている。	献立はその日の食材で作成している。地域からは魚や野菜の差し入れもあり、季節の地元の食材を提供し、食事が楽しみなものになるよう努めている。メニューも多く、行事食は家族へも提供している。家族の支援で外食する利用者もいる。力量のある利用者には下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器による目分量で同じようにし、残飯や嗜好、アレルギーなどを考慮しつつ、一日1500キロカロリー（大まかに）、水分1500ccを基準に体重の増減、排便排尿の記録より随時チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を行い、それとともに定期的な歯科検診と歯科衛生指導にもとづき口腔内の保清に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ利用を減らすため、日中はトイレで排泄ができるように声かけを行い見守りながら自助努力による排泄に取り組んでいる。食前、食後、就寝前など排泄のタイミングを捉え、トイレ誘導を行い、自立排泄を支援している。	排泄チェック表の活用や、利用者の表情しぐさから排泄パターンを把握し、早目のトイレ誘導に努めている。自尊心や羞恥心に配慮し、利用者に応じた声かけ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎月行われる勉強会のテーマに取り上げ食物繊維の豊富な食材等を確認し、便秘予防策に取り入れる。毎日実施するレクリエーションや歩行訓練で身体を動かし、消化管運動を促すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日、利用時間帯は決めてはあるが、その時間帯なら一人で入浴ができる方はいつでも利用していただき、見守り介助が必要な方は希望に添った時間に入浴できるようにしている。	週3回が基本ではあるが、利用者の希望や身体状況に応じて柔軟な対応をしている。入浴出来ない時には、清拭や足浴に変更している。異性介助も特に問題はなく、入浴をためらう方には時間を変えるなど、個々に応じた支援をしている。家族の協力で温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のよい日は寝具を洗い、干し清潔に保ち気持ちよく睡眠がとれるように努めている。不眠の利用者がいたら好みの飲み物を飲んでもらったり話し相手になったりして落ち着けるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず看護師が薬のセッティングを行い、服薬介助を実施する職員も声を出して名前を確認し、服用後の観察も実施する。薬の作用、副作用については勉強会を開催し理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族の希望で外出外泊したり、共同生活の範囲内で好きな飲酒・喫煙をしたりその方がの好みや楽しみを持って過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は散歩に出て、気分転換を図り、地域の行事や祭にも参加している。自宅に帰りたいたいの要望に応え、家族にお願いして帰宅し空き家状態の家屋に空気の入れ換えや仏壇に手を合わせるなど、日頃、気がかりな自宅の様子などを見に行ってもらっている。	日常的にはホームの園庭や近所への散歩である。地域の行事には参加し、家族の協力をもらいながらの年間の外出計画もある。家族とパチンコを楽しみに行ったり、墓参りに行ったりと日常的に外出できるよう工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の金銭管理をしている方はいないが、利用者の希望の買い物があるときは家族と相談の上、下着、靴下、靴、飲み物、お菓子など購入し立替払いにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者個人で携帯電話を所持している方が2名おり、施設の電話も利用し、いつでも連絡がとれるようしている。ラインやメールアドレスを把握している家族へは、利用者の状態や様子を写真付きで送信している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日々の清掃は欠かせない。玄関、廊下、浴室、食堂、台所、居室、トイレ等掃除を行い、清潔に努める。利用者が集まる居間には季節毎の花木を飾り、南向きの窓からの風景で天気や季節を目で感じられるようにし、利用者が気持ちよく過ごせるように心掛けている。</p>	<p>共有空間の全てが掃除が行き届き、清潔に保たれている。眺めのいい解放感のあるウッドデッキからは、季節の自然を感じ取られる。壁には季節の飾り付けや、外出や行事の時の写真が掲示されている。利用者が思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者本位を心掛けている。自室で本を読んだりテレビを見たり昼寝をしたり、時には家族とお茶を飲みながら会話を愉しんだり、利用者の好きな時間に好きな場所で思い通りに過ごせるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室の空調で本人の好みに応じた室温管理を行い、快適に過ごせるようにしている。使い慣れたものやお気に入りの道具を持参し、自宅と同じような環境で過ごせるよう配慮している。</p>	<p>明るい居室には、利用者や家族の好みのベッドやダンス・家具・寝具・テレビが持ち込まれて、清潔で心地よい空間作りとなっている。壁には家族の写真や、小物を飾ったりと本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>着替えや整容、靴の装着、持ち物のや身の回りの管理などできることは本人に任せている。見守りが必要な場合は必要に応じて職員が対応する。手を出すことは控え、できるだけ自分でできるよう援助している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない